

初石駅 東口開設、TX8両編成化を要請



日本共産党市議会議員

小田桐たかし

つくば
エクスプレス

8両編成化未実施の理由語れず

つくばエクスプレスは、開業当時、6から8両編成に拡大する条件（1日平均乗客数27万人）を設定。しかし、09年度（目標の1年前倒し）の達成後、ダイヤ改正や南流山駅改修にとどめ、車両やホーム等整備年次計画（用地は鉄道建設時に確保）は具体化していません。また学割定期についても、JR並みの割引率ではなく、高額な運賃に悲鳴が聞かれます。

小田桐市議は、8両編成化の早期導入と学割的の割引率引き上げを国交省に要請。「国交省からの天降り人事や高額な役員報酬の一方で、利用者の利便性向上に背を向け続ける姿勢は問題。国交省として8両編成に向けた条件を明確にするべき」と指摘しました。

ました。H22年12月市議会では、市当局が「地域世論の醸成が東武鉄道を動かす上で不可欠と認識をしている」と約束していました。しかし、実際は守らず、何もやっていない：行政の怠慢です。



一番左が小田桐たかし市議。当日は、小松実県議（千葉市）や船橋市、八千代市、印西市、松戸市等も参加しました

東武鉄道

「市から要請あれば受ける」と回答

小田桐たかし市議は、鉄道事業者への指導責任を持つ国土交通省に、「初石駅東口開設に向けた地元協議に、鉄道事業者が積極的に参加するように指導すること」を要請しました。

国交省は「市からの要請があれば東武鉄道は受ける」「H16年度以降、市からの要請がないようだ」と回答。改めて流山市の姿勢（おたかの森駅周辺だけではなく、市政全体の活性化や発展を図る責任）が問われたことになりません。